

「コミュニケーション」

この言葉を耳にしたことがない人はいないだろう。コミュニケーションという言葉は今ではとても身近な言葉になっている。インターネットの急速的な普及により、言葉と言葉で会話することが難しい場合でも文字を送信したり、動画を使ったりと様々な方法で会話をすることができるようになってきていることを感じる。しかし、本当の意味でのコミュニケーションはできているだろうか？

コミュニケーションの語源は、ラテン語の「communis」だと言われている。「communis」には、「共通の」「共有する」「分かち合う」といった意味が込められている。つまり、コミュニケーションとは、本来、何かを共有したり、双方向的に情報を伝達し合ったりことを意味するだろう。

コミュニケーションをとることは日常生活に必要不可欠な活動であるが、そのコミュニケーションは、重度・重複障害児・者となれば様相は少し変わってくる。そして、障害が重複すればするほど、重度になればなるほど、さらにコミュニケーションをとることが難しくなるだろう。

子どもの表情や微細な変化、動き、身体の緊張などの動きから子どもの伝えたいことを読み取り、分かち合い、援助を工夫したり、配慮したりすることが私たちにはできる。子どもが周囲の人に向かって発信したサイン受け取るための努力を私たちは怠ってはいけない。子どもたちは私たちがつい見逃してしまうかもしれない小さなサインをいま、一生懸命出しているのかもしれない。

参考文献

・重複障害のある子どものコミュニケーションと模索活動 国立特別支援教育総合研究所
<https://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7411/b-157.pdf>